

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

静岡市 地域ワークショップ 報告書

2019（平成 31）年 2 月 14 日（水）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」静岡市ワークショップが開催されました。当日は、静岡市のオリンピック・パラリンピック教育推進校の先生方 2 名（小学校 1 名、中学校 1 名）及び推進校ではない学校の先生方 125 名にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2019（平成 31）年 2 月 14 日（水）14 時 00 分～16 時 30 分

会場：静岡市教育センター中研修室

主催：静岡市教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：127 名

プログラム：

14:00～14:10 開会の挨拶

静岡市教育センター研修係長 石田 美紀子 氏

14:10～14:30 全国展開事業の概要と全国のオリパラ教育実践事例の紹介

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 研究員 岡田 悠佑 氏

14:30～15:20 パラリンピック選手への取材から見たオリパラ教育の魅力

株式会社 WOWOW 制作局 太田 慎也 氏

15:20～15:30 休憩

15:30～16:10 実践事例紹介・来年度の取組等

静岡市立中藁科小学校

静岡市立清水両河内中学校

オリンピック・パラリンピック教育コーディネーター

16:10～16:20 情報交換

16:20～16:30 アンケート記入・閉会

開会行事では、静岡市教育センター研修係長の石田美紀子氏より挨拶がありました。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、オリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツについての認識を深めていきたい、という静岡市のオリ・パラ教育の方向性についてお話しされました。

次に、本センターの岡田研究員より本事業の概要と実践事例についての説明がありました。本事業が始まって 3 年が経過し、少しずつ 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック後のレガシーとして何を残せるのか、ということ意識しながら事業を推進していくことの大切さ等についてお話しされました。



会場の様子



岡田研究員の講義

続いて、株式会社 WOWOW の太田慎也氏によるパラリンピアン映像コンテンツ「WHO I AM」の解説や作成の背景、さらには作成の過程で感じたこと等についてのお話がありました。株式会社 WOWOW がパラリンピアン映像コンテンツを作成するに至る背景には、パラリンピアン語りから「多様な肉体から放たれるのは、これが自分だ！という力強い主張」を感じ取り、「パラリンピアン=自分とは誰か？を考えさせてくれる存在」である、という考えを抱いたことがありました。このような考えのもと、世界トップクラスのパラリンピアン取材と映像化を試みてきたそうです。

続いて、10分の休憩の後、推進校の先生による実践報告が行われました。

中藁科小学校では、「総合的な学習の時間」を活用してボッチャの体験が行われました。ボッチャの指導員の方を招聘し、ルールや競技の進め方等の説明をしていただきました。その結果、障害の有無や年齢等、様々な人と一緒にスポーツをしたいという児童が増えたそうです。さらに、ウェイトリフティングの選手を招聘した講演会では、事前に映像資料を活用してウェイトリフティングの競技について知る時間を設けました。さらに、講演の場面では、児童の目の前で150kgのバーベルを持ち上げる様子を見たり、子ども用バーベルを活用したウェイトリフティング体験を行ったりしました。その結果、ウェイトリフティングへの理解が深まり、応援したり他の競技に興味を持ったりする児童が増えたそうです。

両河内中学校では、これまで行ってきた福祉施設への訪問事業の中で、生徒と障がいのある方との交流が深まらない、という課題を抱えていました。そこで、本事業を契機に、施設の方と一緒にボッチャを行うことで交流を深める取り組みを行いました。施設訪問を行う前に、ルール等の確認を行いました。そして、実際に、施設訪問の際に施設の方と一緒にボッチャを行ったところ、これまで以上に関わりが深まり、とても楽しく感じた生徒が増えたそうです。

最後に、静岡市の本事業のコーディネーターの黒柳氏より、来年度以降の本事業の方向性等についての説明があり、散会となりました。



「WHO I AM」の説明



実践報告①



実践報告②